

整形外科

1. スタッフ (平成27年4月1日現在)

科 長 (教 授) 竹下 克志
 とちぎ子ども医療センター
 小児整形外科科長 (学内教授) 吉川 一郎
 副科長 (准教授) 安食 孝士
 リハビリ科長 (准教授) 木村 敦
 外来医長 (准教授) 安食 孝士
 病棟医長 (講 師) 木村 敦
 小児整形外科講師 (とちぎ子ども医療センター)
 渡邊 英明
 講 師 遠藤 照顕
 助 教 笹沼 秀幸
 助 教 井上 泰一
 小児整形外科病院助教 (とちぎ子ども医療センター)
 菅原 亮
 病院助教 伊志 嶺卓
 病院助教 飯島 裕生
 病院助教 (リハビリ) 金谷 裕司
 シニアレジデント 6名

2. 診療科の特徴

各種運動器疾患に対し、レベルの高い診療を提供している。特に、脊椎、関節外科、手の外科、外傷、関節疾患、小児整形、スポーツなどの専門診グループを作って高度な医療を行っている。栃木の重度外傷患者を多く引き受けており若手のよいトレーニングの場にもなっている。

最新式手術用顕微鏡を完備し、術中CT撮影装置やナビゲーションシステムを使用したコンピュータ支援手術を行っている。各種人工関節を高い精度のもとに多く行っている。また脊椎や各関節に内視鏡を揃え、侵襲の少ない手技の向上に努めている。手技取得研修に対し、科として積極的にバックアップを行っている。

臨床研究においても各学会でシンポジウムやパネルディスカッションに指名されている。紹介患者数、手術適応患者数に比して手術枠が不足しているため、手術枠増加努力を念頭におきつつも、さいたま医療センターをはじめとする関連病院との連携を密にして診療を行っている。26年度より短期入院用手術枠を新設し、上肢の再建手術を行っている。

学生教育、若手の育成と指導にも力を入れており、海外および国内留学も積極的に奨励している。若手には大学と関連病院において、全ての運動器診療を経験できるような研修システムを提供し、卒後7年を目安に専門医取得ができる体制を整えている。英文原著論文作成指導

に力点をおき、競争的研究費取得の努力を続けている。
 学生参加型のカンファやクルズスが当科の売りのひとつである。毎年、学生評価によるDepartment of the Yearを獲得している。

・施設認定

日本整形外科学会認定専門医制度研修施設
 日本手外科学会認定専門医制度研修施設

・専門医

日本整形外科学会専門医	21名
日本整形外科学会脊椎脊髄医	5名
日本脊椎脊髄外科病学会指導医	4名
日本整形外科学会認定スポーツ医	2名
日本整形外科学会認定リウマチ医	1名
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医	1名
日本手外科学会専門医	1名

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	1,562人
再来患者数	15,890人
紹介率	84.0%

2) 入院患者数

300人

3-1) 手術症例病名別件数

脊椎	小児脊椎	12
	頸椎	67
	胸椎	23
	腰椎	67
関節	人工股関節	4
	人工膝関節	26
	肩関節 (関節鏡視下含む)	27
	膝関節 (関節鏡視下含む)	16
	人工肩・肘関節	18
	股・足関節その他	32
手・末梢神経	末梢神経	6
	手の外科	45
外傷	骨折 (骨接合術)	62
	大腿骨頸部骨折	14

外傷 病巣廓清術、 切断術等	脊椎骨盤骨折その他の外傷	15
	その他の軟部外傷	5
	抜釘	9
	切断	13
その他		12
総件数		473

3-2) 手術術式別件数・術後合併症件数

	症例数	合併症症例	再手術症例数
脊椎手術	169件	4件	1件
人工膝関節置換術	48件	0件	0件
骨折手術	91件	1件	0件

4) 化学療法症例・数

なし

5) 放射線療法症例・数

転移性骨腫瘍 10名

6) 悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

転移性骨腫瘍 10名 全例手術治療

7) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

症例	死因	剖検
下肢広範囲感染症	敗血症	なし
下肢の悪性腫瘍骨転移	腫瘍死	なし
大腿骨骨折術後感染	敗血症	なし

8) その他の治療症例・数

化膿性脊椎炎 5件

圧迫骨折など保存治療 3件

9) 主な処置・検査

脊髄造影検査、神経根造影検査、椎間板造影検査など：54件

10) カンファランス

(1) 診療科内

月曜日午後6時より

病棟カンファランス：入院患者につき問題点等の検討、リスクマネジメント該当事項の把握

水曜日午前7時より

抄読会：若手には英文テキスト、中堅には英文ジャーナル論文を割り当てて行っている。内容を充実させるため、チューターの指導がある。

水曜日午後5時より

ケースカンファランス：入院予定患者についてケースカンファランスを行っている。

木曜日午後5時より

脊椎カンファランス(放射線科と合同)：画像診断、

手術計画につき綿密な検討を行っている。

(2) 他科との合同

アレルギーリウマチ科と合同カンファランス：

進歩の著しい関節リウマチ診療につき、薬剤のアップデートの情報交換、外科的治療法最新情報の提供を行っている。

(3) 他職種との合同

リハビリカンファランス

(4) 他病院との合同

毎月第2金曜日 派遣病院との骨折症例検討会

毎月1回 肩肘疾患勉強会

しもつけ整形外科懇話会 主催：年2回、最新の運動器疾患のトピックにつき講演会を主催している。

4. 事業計画・来年の目標等

レジデント、学生への濃厚な教育体制を維持する。若手医師に対する指導体制も維持する。

先進医療を提供するための顕微鏡手術、ナビゲーション手術、顕微鏡視下手術、重度外傷手術をはじめとする高度な治療を安全に行えるシステムを維持する。派遣病院の充実、連携をより強固にすることにより大学本来の高度医療を優先して行えることを目標とする。

厚労省の特定疾患である脊柱靭帯骨化症研究班の班員指定であり、引き続き本疾患についての多面的研究を遂行する。また、脊髄・末梢神経再生について臨床応用を目指す研究を継続する。